



©武藤 卓

連弾のきほん

～コンクールから一歩前へ

相手を見て、感じて、知る音楽づくり

文・ピアノデュオ ドゥオール
 (藤井隆史&白水芳枝)

はじめに

日本各地でのコンクールやレッスンで聴かせていただく連弾のレベルは数年前より格段に上がり、取り組み方もより真剣になってきています。以前よく質問された、1拍目の音のズレの解消法や、どちらがペダルを踏むのか？などの問題はほぼ解消され、音楽づくりとして次の段階

に入っていると感じています。

ただ、コンクールなら頑張れるのだけど、それ以外ではあまり連弾に取り組めない、生徒さんがコンクールには慣れていても、先生方、親御さんから見て音楽がマンネリ化している気がする、経験を重ねた生徒さんたちでも、練習で何をしてよいのか分からないなど、小さな壁に度々ぶつかって挫折するペアも多いよう

ピアノデュオ ドゥオール
 藤井隆史：東京藝術大学大学院修了。
 現在、武蔵野音楽大学講師。
 白水芳枝：東京藝術大学卒業。現在、
 国立音楽大学講師。
 共に文化庁、DAADの奨学生として
 ドイツ・マンハイム音楽大学大学院に
 学び、ソロ科、ピアノデュオ科
 履修修了。2004年にドイツにて
 デュオ結成後、国際的な賞を数多く
 受賞。以後、国内外にて60近いス
 テージを積み、リサイタル、コンチェ
 ルト、講座、NHKなどの放送出演
 など、ピアノデュオを中心とした活
 発な演奏活動が、聴衆や音楽誌から
 高い評価を受けている。結成11年
 目となる15年には、6枚目CD「2
 台のピアノのためのゴルトベルク変
 奏曲」をリリース。3作連続のレコー
 ド芸術誌「特選盤」に選ばれた。また、
 ピアノデュオでの後進の指導にも力
 を注いでおり、近年カワイ梅田や彩
 の国といった芸術劇場主催のピアノ
 デュオセミナーなど、ピアノデュオ
 の道を切り拓く指導者としても、今
 後の更なる展開が期待されている。
 公式サイト：www.yoshie-takashio.com
 公式ブログ：<http://ameblo.jp/yoshie-takashio/>

な気がします。

時間の流れが大変早く、早く世に出たものが勝ちのような空気が強い現代。効率と結果が求められ、「このコンクールで弾いたら、次のあの

コンクールでも同じ曲が使えるから」といった、曲や舞台への思い入れや貪欲さを削ぐような勉強の仕方が主流になっている傾向もあります。しかし、あらゆることに「見て、感じて、知る」情熱を注げば、楽譜が、音楽が、たくさんのことを教えてくれるのではないのでしょうか。

生涯に渡ってデュオに触れ、デュオを愛し、デュオを奏でるペアが1組でも増えるよう、音楽とともに生活していくために必要な「連弾の基本」の中から、主に「見る」ことに焦点を当ててお伝えしようと思います。

2人で弾く前から、 連弾は 始まっています!

「相手と弾けることに感謝し、 その時を楽しみ、 相手の音楽を尊敬すること」

どんなにイラっとすることがあっても笑顔で! 誰にとっても連弾やアンサンブルの始まりはこれに尽きます。相手あっての連弾。相手がいてこそ連弾です。

「相手は 分かってくれているはず、 が間違いの元」

連弾はピアノでのアンサンブルであり、音を通した人間同士のコミュニケーションです。曲について、イメージについて、テンポ設定について、自分の想いすべてを言葉にし、相手に伝えることが大切です。

連弾は「1 + 1 = 1」。1人と1人が限りなく1つのものを目指すことが連弾を学ぶことですから、目指す音楽の形は同じかどうか、常に話し

合う心掛けを。

これらをいつも呪文のように唱え(笑)、そしてやっと、ピアノに向かっています。

見る

楽譜を見る、
相手を見る、
自分を見る

「その手の位置で 合っていますか?」

まずは楽譜を2人でよく見てみましょう。連弾の場合は、それぞれのパートが、「ト音記号かヘ音記号か」をよく見る必要があります。プリモは両手ともト音記号ということもよくありますし、さらに年齢の小さい方の楽譜では、「プリモは両手とも1オクターヴ上で」「セコンドは両手とも1オクターヴ下で」と記されていることもよくあります。

また、本番で手の位置をあまり考えずにバツと座ってしまい、弾き始めてから音の高さが違うことに気づいて初めから弾き直し……、という光景に出会ったことはありませんか?

練習の時から2人で揃ってお辞儀をし、椅子を振り返り、座って正しい位置に手を乗せる、という流れも繰り返し確認してみてください。

そしてその流れで、**プリモのメロディーの支えはセコンドの左手**であり、セコンドの左手バスはプリモのメロディーを支えている立場であるというバランス感覚を意識しましょう。二身一体である連弾独特のバランスです。

次に、連弾での問題点である、手のぶつかり、指の絡みを回避するた

めに、お互いの手や体の位置も早い段階で決めましょう。

1、特にプリモの左手とセコンドの右手が上下の関係になる時の、手の位置を決める。

2、体を後ろ(1人が前傾でピアノに近づき、もう1人はピアノから離れて体の前にスペースを作ってあげる)、または左右にずらして、2人とも弾きやすいポジションを探す。

初めに手や体の位置を決めてしまえば、1人で練習するときも体の移動や演奏をイメージしやすく、本番で思わず身体がぶつかるトラブルも避けられます。

「曲のタイトル、テンポ、 表現記号を 2人で理解すること」

楽語の意味を取り違えていると、まるで違った音楽が出来上がってしまいます。そして、楽語から感じるテンポ設定も大切です。

楽譜がセコンドは常に刻みの16分音符、プリモはメロディーとして歌う4分音符と2分音符で構成されていて、そこに Allegro と書いてあった場合、2人がそれぞれ違う Allegro のテンポを設定してしまいうるそうですね(16分音符がやたら忙しく、4分音符はゆったりしてしまう、といったように)。両方のパートをきちんと見た上で、Allegro のテンポを理解して弾く必要があるのです。楽語を「感じる」チャンスとして、2人で同時に学びましょう。そして、どこがメロディーでどこがバスなのか、内声はどこかを楽譜に直接色付けてみましょう。その曲の骨組みを知る大事な作業です。

実際に弾いてみて、多声部の曲については、

- 1、今弾いているモチーフは、メロディーなのか内声なのか。
- 2、この音は、相手の音の上に乗っているのか、乗られているのか、またはハーモニーの中に入るのか。
- 3、相手の音の下にもぐりこむ声部なのか。

その関係性をよく感じ、楽譜から読み取り、耳と体で感じましょう。

なお、楽譜上でプリモ、セコンドのパートに書いてある音でも、せっかく2人いるのですから、取りにくい音などは、音楽の流れが悪くならない程度にお互いの音を部分的に弾いてあげることも可能です(私たちは度々しています!笑)。

連弾では、それぞれの奏者の音が少ないため、ラクだとか、あまり練習しなくてよい(ルン)、と考えがちですが、2人で奏でている音が1つの音楽を作っていますので、2人共すべての音を覚える覚悟で演奏するべきです。特にセコンドは、相手のためのペダルも覚えて演奏するので、やはりこの音数で充分なのです。

「指のどこを見えていますか?」

指をただ見るだけでなく、お互いの指先が鍵盤に落ちる瞬間をよく見ること。各自の音の粒を揃えるためにも、自分ではなく相手の指を見ましょう。

- 1、同じ高さで上がっていますか?
- 2、同じアーティキュレーション、息づかい、フレーズの長さで弾いていますか?
- 3、右手同士、左手同士がユニゾンの時に、親指をくぐらせる音、指使いは同じですか?
- 4、そして何より、両手でのユニゾンの時、あなたの両手は揃っていますか?!

揃っていないことがよくあります!)

ちなみに、ユニゾンにもバランスが大切です。右手をメロディーとし、左手はそれを支えるだけにしましょう。

感じる

「音楽の鼓動を共に感じましょう」

2人が同じ拍感かどうか、メトロノームを使って練習しましょう。拍は曲の鼓動、強拍はその曲の命綱です。「正しい拍感」ではなく、**2人が同じ拍感か**、が大切です。アウフタクトや変拍子になっても、いつも**1拍目の在りか**を突き留めましょう。

「深いブレスの重要性。」

2人分のブレスをするつもりで」

呼吸を共にするだけでなく、気配で相手の肩や体の動きも感じてみましょう。連弾では相手に自分の呼吸を「知らせる」ことも大切です。その結果……。

知る

「相手を知る、相手の音楽を知る、自分の音楽を知る」

連弾のパートナーほど、こんなに近くから見られ感じられている音楽仲間には他にいません。自分にとって一番の先生になってくれるかもしれません。見て感じることで、相手のクセも自分のクセも見つけられ、アドバイスをもらったり、相手のことを感心したり、自分の音楽を省みたりもできます。自分のことを知る

良いチャンスであり、相手は自分の音楽の良き理解者になってくれるでしょう。

最後に

音楽は偉大です。日々の生活では感じられない、過去の歴史や国、会ったこともない人物から多くを学ぶことができ、楽譜の中にすべての答えがあります。そう感じられただけで、結果や賞歴ではない、もっと深いところで音楽と共にいられる喜びを感じられると思います。

さあ、今日も2人で元気に、ピアノに向かいましょう!

(文責:藤井隆史)

ピアノデュオ・ドゥオール 公演情報

●ブルッフ

《2台のピアノのための協奏曲》
(共演: NIPPON SYMPHONY)
4月14日(金) 18時30分
東京芸術劇場コンサートホール
(チケット)
東京芸術劇場ボックスオフィス
0570-010-296

●第2回ドゥオールピアノデュオセミナー

(埼玉県芸術文化振興財団共催)
8月23日~26日(水~土)
彩の国さいたま芸術劇場音楽ホール
(26日15時修了コンサート)
《問合せ》seminar@yoshie-takashi.com
<http://www.yoshie-takashi.com/seminar.html>

●「2台のピアノのためのゴルトベルク」

7月27日(木)
三重県文化会館大ホール
10月28日(土)
カワイ梅田サロンジュエ
12月2日&3日(土&日、2回公演)
東京・山王オーデリアム